

# 平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 団体枠協働ボランティア事後調査アンケート 集計結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」はノラ猫や多頭飼育の猫に対し不妊手術を行い、猫への苦情や、殺処分への減少に寄与する活動です。

平成 30 年度は 1,663 名の個人(一般枠)、25 の団体、81 の行政と協働し、約2万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

### 1. アンケート概要

平成 30 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(団体枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※団体枠とは：行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会

団体枠登録対象者

団体枠 A=【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介される事、相談者に対応することに同意した団体

※地方公共団体が運営している施設(公園等)の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

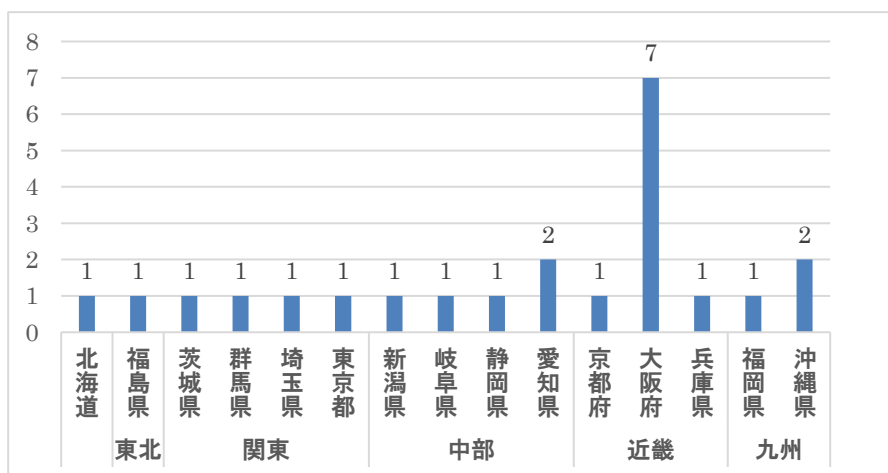
団体枠 B=学校法人、自治会連合会、自治会(チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る)

- ・平成 30 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請数 28 件
- ・アンケート依頼時(平成 30 年 12 月 5 日)のマイページ登録者数 30 件
- ・アンケート有効回答数 23 件 (マイページ団体数 30 件中)

### 2. 都道府県別団体数

約 30%が大阪でした。

一般枠のアンケート結果からも大阪で特にさくらねこ TNR が普及していることが示されており、団体についても同じ傾向であることがわかります。



### 3. 配布チケット数について

30 年度に配布を受けたチケット数	票数	%
1～10	7	30%
11～30	5	22%
31～60	5	22%
61～100	2	9%
100～200	4	17%
201 以上	0	0%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	10	44%
80～99%	7	31%
60～79%	4	17%
40～59%	1	4%
20～39%	0	0%
1～19%	0	0%
使わなかった	1	4%

72%の団体が 80%以上の使用率でした。

### 4. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	1	4%
いいえ	22	96%

一般枠とほぼ同じ4%が行政に公式に認められた地域猫でした。

あなたがエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	4	18%
1	0	0%
2～5	3	13%
6～10	1	4%
11～15	4	18%
15～20	4	18%
21～30	1	4%
31～50	2	8%
51～80	3	13%
81～250	0	0%
250～500	1	4%

## 5. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	22	96%
猫の性格が穏やかになった	11	48%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	14	61%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	7	30%
猫の健康状態が良くなった	11	48%
その他	2	9%

その他を選択した団体は、近隣住民が少し猫に優しくなった、住民の猫問題に関する意識が少しずつ向上している、等の変化を報告しました。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	12	52%
猫の数は変わらない	10	44%
猫の数が増えた	1	4%

「猫の数が増えた」を選択した団体も、子猫の出産が減ったと報告しており、TNR の効果は出始めていると言えます。

## 6. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	15	65%
苦情が減った	13	57%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	7	30%
協力してくれるひが増えた(できた)	15	65%
地域の人に感謝された	14	61%
猫を可愛がってくれる人が増えた	7	30%
その他	1	4%

その他と回答した団体は、特に変化を感じていませんでした。

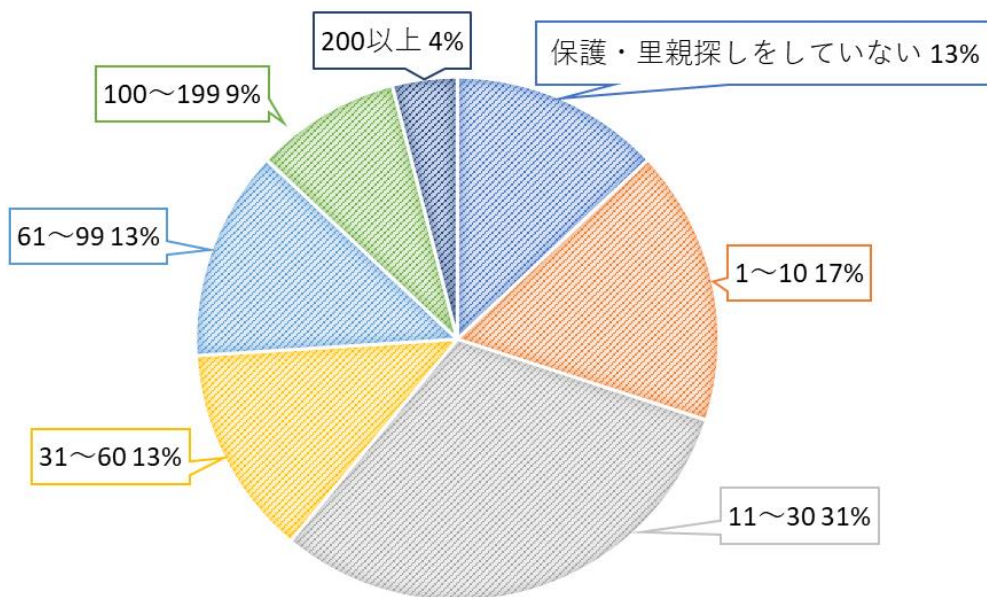
住民と猫ボランティア(あなた)の関係は	票数	%
良くなった	11	48%
変わらない	12	52%
悪くなった	0	0%

## 7. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	20	87%
いいえ	3	13%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
1～10	4	17%
11～30	7	31%
31～60	3	13%
61～99	3	13%
100～199	2	9%
200以上	1	4%
0	3	13%

■ 保護・里親探しをしていない ■ 1～10 ■ 11～30 ■ 31～60 ■ 61～99 ■ 100～199 ■ 200以上



回答した 23 団体で合計 1079 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	3	13%
1	0	0%
2～5	1	4%
6～10	3	13%
11～15	2	9%
15～20	4	17%
21～30	2	9%
31～50	2	9%
51～80	2	9%
81 以上	1	4%
101 以上	3	13%

## 8. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	6	26%
資金不足	17	74%
捕獲がうまくできない	15	65%
行政との調整	10	43%
地元地域との調整	2	9%
その他	0	0%
特になし	0	0%

## 9. 飼い猫の捕獲について

30年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	5	22%
いいえ	18	78%

アンケート回答者 23 団体のうち 5 団体(22%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答。  
手術まで至った例はありませんでした。(飼い猫と判明した時点でリターンした。)

## 10. ピックアップコメント

●大阪府北摂地域を中心にTNR 活動をしています。外で暮らす猫達が命の危険にさらされず少しでも安心して生涯を全う出来るよう願います。さくらねこサポーターの皆様、ご寄付下さる皆様、どうぶつ基金関係者様、すべての方に心から感謝致します

●まだまだ小さな団体になりますので、どうぶつ基金様の無料チケットのお陰で、細々と活動を継続させて頂いております。代表が外国人という事もあり、外国人からの TNR 活動のサポートもやっております。

●不妊手術が無料でできることは大変助かっています。その他の費用もかかっていますのでありがたいです。

●お陰様で、たくさんの猫の不妊手術をすることが出来ました。飼い主のいない猫を減らすため、これからも頑張っていきます。有難うございました。

●ご寄付いただきましたおかげで多頭崩壊を防ぐことができました。ありがとうございました！

●メンバーの自己負担では、とても TNR 活動が難しい所までできていましたが、どうぶつ基金に寄付をいただいた皆様の善意で活動が継続できることになり大変、感謝しております。

●ご寄付のおかげで、多頭飼育崩壊寸前の飼い主さんとたくさんの猫たちが路頭に迷うことなく、生活を立て直すことができました。本当にありがとうございました！

●おかげさまで今年もたくさんの猫達に安心を届けてあげることができました。

●いつもご支援をいただき有難うございます。この制度により、たくさんの野良猫に不妊手術を行うことができます。有難うございます。

●どうぶつ基金さん、そしてそのサポーターである『さくらねこサポーター』のみなさま、各ご支援者様方のおかげで、野良猫問題に立ち向かう一市民の皆様や、それを支えお手伝いする私達団体は、今年も TNR 活動を進めることが出来ました。いつか私達のような団体が必要無くなる日まで、これからも皆さまの想いを胸に新たに生まれ悲しい運命をたどる命を作らないこの活動を頑張ります。支えていただき、本当にありがとうございます。

●5年前から近隣の野良猫に不妊手術を細々とやってきましたが、昨年末少し離れた場所で野良猫のコロニーを見つけてしまいゼロの会に相談しました。約40匹に不妊手術をして頂き 20 匹を里親募集するため家に保護しました。しかしひどい風邪が大半に移り医療費負担にも苦しみ そんな中でも次々と手術対象の野良猫が見つかり 自身の経済状態が紛糾した時 貴基金の事を聞いてお世話になりました。本当にありがとうございました。この基金が無ければ到底救えなかったです。

### 13. 総括

●「過去1年間、多頭飼育崩壊の相談を受けたことがありましたか」との質問には、23 団体のうち 10 団体が「はい」と回答し、野良猫や地域猫のみならず、多頭飼育崩壊が主要なさくらねこ無料不妊手術事業の対象となっていることがわかりました。ある団体からは、行政とも協力し、多頭飼育崩壊 6 事例で合計 185 頭に TNR を実施したと報告がありました。多頭飼育崩壊の場合は、TNR 実施後に団体が猫の引き取りと里親探しまで行う例も多く、1 軒の多頭飼育崩壊現場から子猫 28 頭を引き取った事例も報告されました。個人宅が対象となる多頭飼育崩壊に対しては、行政抜きでの介入は難しいため、不幸な命を生まないために更なる行政との連携強化が望まれます。

●「町内会、マンション管理組合が猫の餌やりに反対している場合、自治体も非協力的なので、妥協策が非常に困難な場合が多く、TNR 後のエリアの餌やりや管理が難しく、現地でお世話している人も精神的に辛い状況に追い込まれています」という切実な声が上がった一方、対照的な事例としては「理解ある自治会長さんが出て来たので、今後モデルケースとして、地元からの動きに期待したい」という報告もあり、自治会や町内会といった住民をまとめる立場にある組織の意向が活動に大きく影響することが示されました。こうした組織にさくらねこ TNR 事業を理解してもらい、活動に協力してもらえよう、わかりやすい広報資料等を用いたより効果的な働きかけが必要であると考えられます。

●「このごろ猫の事で猫屋敷周辺のお年寄りから感謝されることが多くなったけど、お年寄りはみんな当団体の事を県の愛護センターと思い込んでいて何度説明してもその時はわかってくれるけど次の日には愛護センターさんありがとうと感謝される」、「地域住民で NPO 嫌いな男性がいらして不妊手術に協力いただけず残念な案件あり、難儀しています」といった声が上がっており、愛護活動は愛護センターのみが行うものという誤ったイメージや、NPO への根拠のない不信感などが根強く残っていることが推察されます。一般枠のアンケート結果からも、一般市民の活動への理解不足や「さくらねこ」や「TNR」の認知度の低さが指摘されており、広く一般市民に対してさくらねこ TNR 事業への理解促進を促すと共に、愛護活動の真の主役である NPO や個人ボランティアが正しく理解され評価されることを目指し、普及啓発や広報面での更なる努力が求められていると感じます。

●行政に認められた地域猫活動地域で活動している例は、有効回答 23 件中 1 件に留まり、一般枠のアンケート結果で示された地域猫活動の普及の難しさが再確認されました。また、回答した 23 団体のうち、7 つの団体は自治会でした。自治会は、環境省の奨励する従来型の地域猫活動の中心となる主体ですが、自治体が行政に認められた地域猫活動地域以外で活動している例が 6 件、認定地域での活動が 1 件と、認定地域外での活動が主流であると言えます。自治会を含めた登録団体による認定地域外での TNR 活動は、どうぶつ基金の提唱する TNR 先行型地域猫活動の実践です。行政には、合意形成に時間を要する従来型の地域猫制度の見直しを行い、既にさくらねこ TNR 活動を展開している自治会や NPO 法人と連携して、TNR 先行型地域猫活動の推進と普及啓発に協力することを期待します。行政との連携事例が増えれば、他地域での前例を根拠に活動を開始する地方自治体が増えることが見込まれるため、不幸な猫を救う活動は飛躍的に拡大を望めるでしょう。